

2013年度 東山梨教育協議会研究の概要

研究推進委員長 小串 吾郎

I はじめに

東山梨教育協議会は、東山梨地域全体の教育振興を願って、1964年（昭和39年）に校長会・教頭会・教連の三者が、県教委、各地教委の協力により設立され、今年度で50年目を迎えた。これまでの活動の中で私たちは「平和を守り、真実を貫く民主教育の確立」のスローガンのもと、平和で民主的な社会を作るための教育研究・実践が重要であることを確認し、とりくんできた。また、管理職、教諭、専門職員が協同して組織研究を進め、東山梨地域の学校教育の向上、教職員個人の質的な向上、教職員相互の強固なネットワークの構築を図り、今に至っている。

さて、東日本大震災から3年が経過しようとしているが、今年度当初、県内に移住・転入し日々の学校生活を送っている児童生徒とその家族が826人いた。当時、その中のあるご家族のお話を個人的に聞く機会があったが、言葉ではとても語り尽くすことのできない思いで生活されており、そんな中でも、「山梨の地域や学校教育に支えられていることに感謝します。」との言葉に、一教職員として身が引き締まる思いがしたのと同時に、絶対に風化させてはならないと改めて感じた。

一方で、子どもたちや学校教育を取りまく状況をみると、多くの課題が山積している。

ゆとり教育路線を転換した新しい学習指導要領が、一昨年度の小学校に続き、昨年度は中学校でも施行され、完全実施となった。学校現場では、増加した授業時数や学習内容等への対応に追われ、子どもたちも、1日の学習時間の増加、学習内容の多さや難解さなどにより、ゆとり感をなくし、教職員のとまどいと保護者の不安をも助長する結果となっている。

また、実施7年目となる全国学力学習状況調査は、悉皆になり、調査結果による序列化・競争の激化が危惧されていることは周知のとおりである。他にも、35人以下学級の見送り、高校授業料無償化への所得制限、道德の教科化など、今後の教育施策の方向性によっては、子どもたちの笑顔を奪いかねない状況が懸念される。

もちろん、時代と共に教育活動も変化していくことが必要だが、ただ時代の変遷に流されるのではなく、我々は、教育の不易と流行をしっかりと捉えた教育研究を行っていかなければならない。子どもたちを中心に据え、学校・家庭・地域に根ざした「心豊かなふれあいのある教育」を、東山梨の教職員が一丸となってめざしていきたい。

II 研究の推進について

1 研究の目標

基本目標 「平和を守り真実を貫く民主教育の確立」

「国民の教育権の確立」

統一テーマ 「人間性豊かな子どもの育成とその学習を保障する教育活動の探究」

2 研究推進の基本的方針

- (1) 教協 50 年目の歴史的な重みや意義を重視し、東山梨の抱える今日的な教育課題解決のための研究を推進する。
- (2) 教育課程（カリキュラム）の自主創造的な編成を強化推進する。
- (3) 各学校の校内研究と教協研究との有機的結び付きとその充実を図る。

- (4) 保護者・地域住民との連携を強化する。
- (5) 組織研究の意義を理解し充実発展させるために、積極的な参加意識の高揚と組織的参加体制の確立を図る。
- (6) 平和・人権・環境教育を積極的に推進し、生命の尊さや平和の大切さの意識高揚を図る。

3 研究の組織づくり

研究の基底は校内研究にあるとの認識に立ち、課題の本質に迫り、解決の方法・内容を考えたり、専門的力量を高める教育研究部会と、同じ地域に勤めるものが課題を共有し、連携をはかりながらその解決策を探るブロック交流研究会、さらに特別委員会を設け教協研究を推進した。以下、具体的に掲げる。

(1) 教育研究部会

共通テーマ；「人間性豊かな子どもの育成と教科教育課程の自主創造的な編成をめざし、教育の本質を実践的に追究する。」

	部 会 名		部 長	学校名	テーマ
1	日本語教育	小学校	渡邊満智子	塩山南小	豊かな表現力の育成 ～伝えあう力を高める指導の研究～
		中学校	鮎澤 智美	大和中	思考力・判断力・表現力を育む日本語指導 ～言語活動の充実を通して～
2	外国語教育		中村 大介	山梨北中	意欲的に英語学習にとりくむ児童生徒の育成 ～発問の工夫や4技能の関連による話すことにつなげる指導の研究～
3	社会科教育	小学校	橋本 尚一	山梨小	科学的社会認識を育てる授業研究
		中学校	酒井理恵子	勝沼中	科学的社会認識を育てる授業研究 ～身近な資料を用いた授業研究～
4	算数・ 数学科教育	算 数	佐々木 晃	日下部小	楽しく学び、高め合う算数学習をめざして
		数 学	古屋 秀輝	塩山中	わかる授業の工夫と授業実践 ～基礎学力の定着と考える力の育成～
5	理科教育	小学校	今澤比呂樹	後屋敷小	楽しく学び 自然を豊かにとらえる理科授業をどのように進めるか
		中学校	石井 美保	笛川中	わかる理科授業の創造 ～考える力の育成と教材教具の工夫～
6	音楽科教育		萩原 久子	塩山中	わたしの音楽 みんなで音楽 ～音楽を形づくっている要素を感受し自ら広げる音楽の世界～
7	美術・図工科教育		小澤 朋子	塩山中	一人一人の力を引き出す題材と授業をどうつくっていくか
8	技術科教育		吉岡 利彦	山梨北中	ものづくりを通して生きる力を育てる指導研究
9	家庭科教育		鈴木美奈子	勝沼中	未来社会・生活をつくる力を育てる技術・家庭 科教育
10	保健体育科教育 (小学校)		日野原和貴	日川小	教材の本質をふまえた体育指導のあり方 ～走・跳の運動(遊び)、陸上運動を通して～
11	保健体育科教育 (中学校)		大澤 祐子	山梨北中	体育分野における授業の効果的な指導法 ～指導形態や場の工夫～
12	保健教育		小林 寿子	塩山中	自らの健康づくりに意欲的にとりくむ子どもをど う育てるか

13	生活科教育	丸山 英子	牧一小	子どもが生き生きと学ぶ生活科
14	自治的諸活動	中村 未来	日下部小	一人ひとりの自立をめざした学級づくり
15	生活指導	佐久間 潤	塩山中	すべての子どもたちへの心理的、教育的援助のあり方
16	特別支援教育	保坂 穂波	山梨小	一人ひとりの実態をふまえた支援のあり方 ～自立をふまえて（どの子も共に生き共に育つ）～
17	福祉教育	新谷 雅美	日下部小	学校教育における福祉教育のあり方をさぐる
18	食教育	早川 里美	塩山北小	食教育を考える ～子どもたちのより良い食習慣づくり～
19	平和・人権教育と国際連帯	山宮 由紀	日下部小	平和・人権教育と国際連帯の広がりをめざして
20	環境教育	青木 恵	大和小	「自然との共生」をめざした「環境教育」のあり方 ～身近な環境や自然に対し主体的に関わることでできる子どもの育成～
21	情報化社会と教育・文化活動	岡 正人	玉宮小	情報活用能力を高める研究 ～情報機器を活用した授業づくり～
22	進路教育	辻 純二	山梨北中	一人ひとりにあった、生きる力をつけるためのキャリア教育はどうあるべきか ～小・中における授業実践を通して～
23	保護者・地域住民との提携	長沼 薫	山梨小	開かれた学校づくりをめざして
24	教育条件整備	池田はるな	八幡小	豊かな教育を子どもたちに
25	カリキュラムづくりと総合学習	新海 直仁	牧一小	豊かで創造的なゆとりある教育課程の編成 ～総合学習の可能性を今、社会へ発信しよう～
26	教育評価	原藤 生府	勝沼小	「生きる力」を育む評価のあり方

（２） ブロック交流研究部会

共通テーマ；「地域が抱える教育課題を共有し・解決に向けた交流を行い，同一地域の小中連携や小中の系統的な教育のあり方を追究する。」

ブロック名	ブロック長	ブロックテーマ
山梨 支 会	山梨南 ブロック 高野 栄子 日川小	○情報交換及び地域の学習を通して，小中４校の望ましい連携のあり方を探る
	山梨北 ブロック 岡村 太郎 日下部小	○小中の連携を深めることにより，山梨北中ブロックの児童・生徒の指導に生かす
	笛 川 ブロック 丸山 英子 牧一小	○小・中学校の連携を深めるとともに，地域の様子や子どもたちの実態を知り，指導に生かしていこう
甲 州 支 会	塩 山 ブロック 武井 麻子 奥野田小	○小中学校の交流を図る中で，地域の様子や子どもたちの様子を知り，連携して塩山中学校区の子どもたちを育てていこう
	塩山北 ブロック 田邊 珠紀 玉宮小	○小中の連携をはかり塩山北中学校区の子どもたちを育てていこう
	松 里 ブロック 武藤 英紀 松里中	○同じ地域に学ぶ子どもたちの教育のために小・中・地域の交流と連携を深めよう
	勝 沼 ブロック 保坂 恵 東雲小	○甲州市「確かな学力」育成プロジェクトとの連携を図りながら，同じ地域に生活する児童・生徒に対する系統的な教育の在り方を考える
	大 和 ブロック 前島 香織 大和中	○小中の連携を深め，児童生徒の教育課題についてともに考えよう

(3) 特別委員会

- ア 教育環境研究特別委員会(委員長 八巻 登 委員…校長会・教頭会・教連・事務職)
 イ 児童生徒連絡協議会(会長 塩山北中学校生徒会会長 廣瀬雄大 顧問教員 武井 松里子)

4 部会運営

本年度は、教育研究部会 26 部会、ブロック交流研究会 8 部会の成立をみた。教育研究部会は年間 10 回、ブロック交流研究会は年間 3 回設定し研究活動を行った。年間計画等、しっかりと見通しの上になんての研究活動を更に推進していくことが重要である。

5 研究日と研究集会

毎週水曜日を研究日とし、地区教協研究日以外は校内研究にあてる。厳に校内行事等を入れずに研究時間を確保するようにしたい。春季・秋季研究集会は 32 校の教職員が一堂に会し開催された。(冬季は天候不順のため部長校開催)

6 研究推進地区

甲州支会を研究推進地区とし、塩山南小学校を会場に各種教研活動が行われた。

7 教育講演会

8 月 2 日(金) 山梨市牧丘町 花かげホール

講 師：埼玉県立秩父特別支援学校 教諭 高橋 浩美 先生

演 題：音楽で心をつなぐ ～「旅立ちの日に」とその後～

Ⅲ 今後の課題

学習指導要領への対応と同時に、特別支援、食教育、キャリア教育、外国語教育など時代のニーズや要請にあった教育活動を進めていく必要に迫られている。このような状況にあって私たちは、幅広い視野を持ち互いの力量を高めるべく、研究、実践をしてきた。

教育問題が多岐にわたる今日、文部科学省からの指導内容をそのまま踏襲するようなトップダウンの教育実践ではなく、目の前の子どもたちの実態を的確に捉えた上で、本当に必要とされる教育は何かをもう一度見つめ直す必要がある。東山教育の長い歴史の中で、先輩方が積み上げてくださった私たちの組織研究に誇りをもって、その意義を会員各自が自覚する中で、東山教育がさらに充実・発展するよう努めていきたい。

〈東山梨教育協議会役員〉

役職名	氏 名
会 長	雨宮政文(日下部小)
副会長	里吉一郎(大和中) 古屋雅章(加納岩小)
事務局	小串吾郎(松里中) [研究推進委員長・事務局長] 梶原 貴(教育会館) [事務局次長]
	雨宮政文(日下部小) 内藤 理(山梨小) 今泉教秋(牧三小) 平井 隆(塩山中) 鈴木正一(松里小) 里吉一郎(大和中) 精進重仁(山梨小) 田邊康弘(大藤小) 古屋宗久(日下部小) 筒井好澄(菱山小) 古屋雅章(加納岩小) 堀井勝彦(日下部小) 小串吾郎(松里中) 雨宮 正(塩山北小) 梶原 貴(教育会館)
会 計	雨宮 正(塩山北小)
会計監査	今澤寛万呂(塩山南小) 河野 泰(塩山北小) 小椋規雄(塩山南小)